

第3回新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員会会議記録

新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員会委員長 高橋 はじめ

1 日時

令和4年1月12日（水曜日）

午後1時3分開会、午後3時14分散会

2 場所

特別委員会室

3 出席委員

高橋はじめ委員長、城内よしひこ副委員長、伊藤勢至委員、佐々木順一委員、関根敏伸委員、小西和子委員、郷右近浩委員、軽石義則委員、名須川晋委員、岩渕誠委員、佐藤ケイ子委員、柳村一委員、菅野ひろのり委員、岩城元委員、千葉秀幸委員、千葉伝委員、工藤勝子委員、岩崎友一委員、佐々木茂光委員、神崎浩之委員、川村伸浩委員、臼澤勉委員、佐々木宣和委員、山下正勝委員、高橋穩至委員、武田哲委員、米内紘正委員、高橋こうすけ委員、工藤大輔委員、中平均委員、小野共委員、高橋但馬委員、吉田敬子委員、佐々木朋和委員、千葉盛委員、飯澤匡委員、工藤勝博委員、佐々木努委員、ハクセル美穂子委員、千葉絢子委員、斉藤信委員、高田一郎委員、千田美津子委員、木村幸弘委員、小林正信委員

4 欠席委員

上原康樹委員

5 事務局職員

下山事務局次長、中村議事調査課総括課長、大坊政策調査課長、角館主任主査、藤根主任主査

6 説明のために出席した者

大阪市立大学医学部 名誉教授 井上 正康 氏

7 一般傍聴者

3人

8 会議に付した事件

(1) 調査

新型コロナウイルス感染症とワクチン ～大切な生命を守る為に～

(2) その他

9 議事の内容

○高橋はじめ委員長 ただいまから新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員会を開会いたします。

上原康樹委員は欠席とのことでありますので、御了承願います。

これより本日の会議を開きます。

本日は、お手元に配付いたしております日程により会議を行います。

初めに、日程1、新型コロナウイルス感染症とワクチン～大切な生命を守る為に～について調査を行います。

本日は、講師として大阪市立大学医学部名誉教授、井上正康様をお招きしておりますので、御紹介いたします。

井上様の御略歴につきましては、お手元に配付いたしております資料のとおりでございますが、井上様は熊本大学、米国の大学、大阪市立大学等において、感染症学を初め医学のさまざまな分野の研究に携わっておられます。平成23年には、宮城大学の理事・副学長に就任され、現在は健康科学研究所・現代適塾塾長、株式会社キリン堂ホールディングスの学術顧問なども務められております。

井上様には、御多忙のところお引き受けいただきまして、改めて感謝を申し上げます。

これからお話をいただくことといたしますが、後ほど質疑、意見交換の時間を設けておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、井上様、よろしく願いいたします。

○井上正康参考人 皆さんこんにちは。御紹介をいただきました井上です。マスクを外させていただきます。

岩手県は、新型コロナウイルス感染症の騒動が始まったころ、ほとんど感染者がいないということで、非常に素晴らしい成果を上げられていたのですけれども、だんだん全国、また世界中がすすたもんだし出して、その影響を受けられて大変な思いをなさっておられると思います。

岩手県の冬は寒いので、マスクは保湿と喉を温かくするためにはいいデバイスかなと思っておりますが、実は、3年前までのインフルエンザがはやっていた時期には非常に有効でした。ところが、世界中でコロナ禍が始まってから、いわゆる感染症対策としては、マスクは全く意味がなかったということが、2年前のデンマークでの5,000人をマスク組と非マスク組で比較した試験と、それから各国で類似の研究がなされておまして、なぜか今回のコロナ禍にはマスクは全く意味がなかったということが学問的にははっきりわかっております。

しかしながら、皆さん方、NHKの番組でスーパーコンピューター富岳を使った呼気の気流が流れる映像を見ると、あの粒子があたかも新型コロナウイルスのように脳がぱっとすりかわってミスリードしてしまう。それから、一気に空気感染という概念と、そしてワクチンを早く調達しないと大変なことになるということで、今世界中が物すごい混乱に陥

っております。

私は、ちょうど 50 年前、1970 年の大阪万博のときに、大学院の 1 年生で病理学の研究をしておりましたが、主任教授から安全なワクチンを開発しなさいという研究テーマをいただきました。御存じのように、当時は生ワクチンという、ウイルスの遺伝子が生きていて、ちょっとたんぱくをホルマリン処理したりして弱毒化したようなものを使っていたのですけれども、時々遺伝子がぐれて大変な事故が起こっております。そういうことで、安全なワクチンをつくりなさいということが 50 年前の若き時代の研究テーマでございました。

そして、そのころから分子生物学という分野が広がりまして、大腸菌とか、あるいは蚕の細胞を使って非常に簡単に、例えばとげとげのスパイクのたんぱくをいとも簡単に大量生産できるようになった。それによって、たんぱくにアジュバントという油の刺激剤を入れてやると、皮下への注射や喉の粘膜にかける安全なワクチンができるということで、1980 年ころにはほぼワクチン学は完成したということがわかっております。ちょうどそういう時代だったので、ワクチンの研究から感染症を少し本格的に勉強してみようということでやっております。

そして、50 年ぶりに今回の遺伝子ワクチンに遭遇しまして、メッセージ RNA ワクチンのデザインを見ましたら、これはすばらしい科学の進歩がうかがえるということで、おとしの秋口にはかなりすばらしいなと思っていたのですけれども、私は 40 年近くネイチャーとかサイエンスという国際雑誌の査読をやるような仕事をずっとやっておりましたが、どんな論文でもすばらしく書いてあるのです。普通に読んでおかしいなと思うようなものはまず出てきません。

しかしながら、その中でちょっとした綻びが見つかるのです。その綻びを見つけて行間をぐっと広げてみると、楽屋裏はもう野つぼだらけ。こういうのをスノービジネスといいまして、雪原は美しいのですけれども、雪が解けてびしょびしょになると、もう野つぼだらけ。そういうのが論文のかなりの部分を占めております。

実は今回の遺伝子ワクチンも詳しく見てみると、そういうものであったということがわかってまいりまして、それからちょっと本格的にワクチンの安全性をきちっと医学として検証してみようということで作業をしてまいりました。

私は、大学をリタイアしてもう 10 年近くになりますので、自分の研究チームを持っていませんけれども、今唯一の私の研究チームはこれなのです。このスマートフォンが 5 時になりますとぴっと鳴ってくれて、世界中のネイチャーやランセット、医学雑誌が全部見られるようになっております。そして、毎日 5 時から 9 時ぐらいまで世界中の論文を見ながら、今何が起きているかということを研究者として勉強しまして、その中で特に市民や国民の皆様にはぜひお伝えすべきだというような情報を分別して、しかもそれがテレビや新聞しか読んだことのない田舎のおじいちゃん、おばあちゃんでもわかっただけのような情報をスライドにして全国に発信しております。

そうすることで、偶然こちらの委員長が、私の動画とおとし出した本当はこわくない新型コロナウイルスという本をごらんになってくださったようで、それからずっと私が発信してきているコラムやユーチューブなんかでかなり詳しく勉強をなさってください、非常にありがたいなと思っております。

きょうは、これからそういうお話をさせていただこうと思いますが、もしスマートフォンをお持ちの方がおられましたら、自由に写真を撮って、またあと帰ってからもう一回あのデータはほんまかいなとか、あるいはちょっとこれは家族や友達に伝えたいと思うような情報がございましたら、もう遠慮なしに撮影してください。

本日の主題は、日本コロナと遺伝子ワクチンの全貌ということですが、日本コロナというタイトルは、御存じのように日本と欧米ではもう100倍ぐらい被害が違うがなぜなのか。この違いをきちっと理解できないと、新型コロナウイルス感染症対策は失敗します。それと同時に、私が50年前にやっていた遺伝子ワクチンというのは、ほとんどがフルサイズの遺伝子を持ったものを弱毒化して打っていたのですけれども、今は遺伝子を遺伝子工学でデザインして、大体1カ月もあればどんな病原体にでも対応できるということで、どんどん変異株が出てきても対応できるようなすばらしい最先端の武器になっております。そういう意味ではすばらしい技術なのですけれども、その遺伝子ワクチンが一体世界で今どういうことになっているのか、この辺の情報も全て国際雑誌で論文として皆さん方が後からでも見られるような情報だけをお伝えしようと思えます。

そうすることで、中身を御紹介いたしますが、何事も歴史を知らないと歴史に反逆されるという名言がございますが、これは感染症でも同じです。感染症の歴史をちょっと見てみますと、やはり100年前のスペイン風邪。これはスペイン風邪と言われていますが、実はアメリカのカンザスシティの米軍のキャンプで発症したインフルエンザだったのです。だから、実はアメリカ株だったということになるわけですが、ちょうどこの兵隊がボストンから軍艦に乗ってヨーロッパ戦線に行き、そしてもう数週間で一気にヨーロッパ中に広がった。たまたまそのときスペインだけが参戦していなかったために情報統制がなかったため、今のユーチューブがバンされたりするようなこともなく、何かおかしい風邪がはやっているということを世界中に発信したために、スペイン風邪という不名誉な名前がつけられたわけです。そのときに野戦病院がつけられましたが、これは3年前の武漢の野戦病院とそっくりですね。100年たっても人間は全く同じことをやっています。

そして、その当時、皆さん方のおばあちゃんの世代を見ますと、全員マスクをしているのです。このときに私のようにマスクしていなかったら、もう非国民ということで、根性棒でどつかれていました。それはなぜか。それは、インフルエンザタイプは、マスクが結構有効です。これは今、分子レベルでなぜ有効かということがわかっております。

そして、それから100年たったときに、武漢で一応コウモリから来たと言われていた新型コロナウイルスがジェット機に乗って世界中を駆け巡った。そして今の時代ですと、1カ月もあれば南極と北極以外の隅々まで新型コロナウイルスが浸透してしまいます。そして、

実は既にもう、被害が少ない岩手県の田舎の隅々にまで新型コロナウイルスは入り込んでおります。今騒いでいるオミクロン株も、ほぼパンデミック状態で日本中に広がっております。そういうことが、今までの感染症の専門家はわからずにきていたのだということがわかっております。

そして、そういう状況の中で、実は今、感染の8割近くが家庭なのです。そして、15%ぐらいが高齢者施設や医療施設の院内感染。そして今、目の敵にされてきた飲食店は数%以下ということがわかっております。そして、東京都の小池知事も大阪府の吉村知事もそのことを御存じですけれども、やはり3密、人流をとめるためには人が集うところを遮断するという、しかも組合を持っていない最も弱い組織なので、そこがターゲットにされて非常にお気の毒な状況になっています。

そういう意味で、皆さん方のマスクも同じ被害状態です。マスクの歴史を見てみようということでちょっとググって見ますと、これは300年前にペストがはやったときにイタリアの医者がつけていたマスクです。そして、このくちばしの中に薬草を詰めればペストを予防できるということで、これはなかなか優れた物なのですけれども、実は今だったらこの中にお茶の葉っぱを詰めれば非常に有効であるということも、エックス線解析の研究結果でわかっております。

そういうことが300年前から学ぶマスクの実態なのですけれども、300年もたちますと、もうマスクはすばらしく進化しまして、目に見えないマスクができました。フェースガード、マウスガード。これを猿が見たら、おっさん何やとんやというふうにはばかにされるような状況ですが、これは新型コロナウイルス感染症からすると、もうこんなものは全くないに等しいということで、麻生さんもそのことを御存じなのです。しかしながら、無駄と知りつつも、こういうマウスガードをつければ、世間に文句は言われたいということなのですが、この方は失言大魔王と言われるように、結構かんしゃくを起しますが、ある記者会見のときに記者さんに向かって、いつまでこんなばかなまねをやらせるのかということで食ってかかれたのです。自分たちが出している政策でもって、逆に自分たちがこういう思いをせざるを得ない状況があるということで、随分身勝手な発言だと思っておりますけれども、そんなことを言っても仕方がないのです。

私は、科学者として、ではなぜこれが無意味なのかということで、このマスクをちょっと顕微鏡で拡大してみたのです。そして、網の目を鶏小屋の金網にしますと、新型コロナウイルスのサイズというのはちょうど蚊のサイズになるのです。そうすると、蚊がもう鶏小屋の金網では防げない。しかし、インフルエンザのように喉がいがいがして、せきやくしゃみをしますと、ぱっと唾と一緒にウイルスが出てきますが、これが鶏のサイズなので、金網でも鶏を逃がさない。なので、実はせきやくしゃみのある方がマスクをすると、インフルエンザタイプでは有効なのです。しかし、かかっていない人には、インフルエンザのときにマスクをしてもほとんど防げないということがわかっております。

それどころか、今皆さん方が呼吸をされるとマスクがへこへこしますね。吸ったときに

はこの辺のダストが入ってきます。ちょうど夏前に、そろそろクーラーを出そうかということで、必ずフィルターを掃除しますね。あのびしとごみやダニが詰まっている状態が、ナノサイズでマスクの表面に吸着しております。そして、呼気には湿気がありますし、マスクをしてしゃべりますと、どうしても小さな唾が飛びます。この中にはアミノ酸や糖分があって栄養液なのです。それでもって、マスクで吸い寄せたバクテリアやダニなんかが一気に繁殖します。それを寒天培養しますと、3時間後にはもうバクテリアのコロニーだらけになる。だから、そういう意味では、そういうばい菌の培養フィルムを皆さん方は2年近く一生懸命つけてきたのです。その結果として、今マスクのところの皮膚病が結構はやっていて、皮膚科の先生方がボーナスをもらえることになった。

それと同時に、女性の場合はマスクをするとやっぱり表情が乏しくなるので、表情筋が深くえぐれてしまうのです。そういう意味では、すてきな人は一体どこに行かれたのだろうかと思うような、マスク不美人が出てきているのですけれども、これが今のマスクの実態です。

そういう状況の中で、やはり歴史と科学をきちっと学ぶ必要があるということで、もう一回感染症の歴史を深掘りしますと、ちょうど私が生まれた1945年、このころはほとんどが結核で亡くなっているのです。3分の1が結核で死んでいました。そういう結核とかコレラというのはばい菌ですから細胞なのです。だから、餌があつたら取り込んでふえるということで、代謝を営んでいますので、この代謝を阻害するのが実はペニシリンとか抗生物質だということで、20世紀は抗生物質が出たために、結核のような細菌が非常にうまく制御できるようになったということがわかっております。

しかし、それで取りこぼしたのがウイルスなのです。しかも、ウイルスのゲノム配列を見てもみますと、大体3割は昔御先祖様がウイルスからもらった遺伝子で、あとの7割は大腸菌とかサルモネラ菌のような腸管に共生している微生物の遺伝子をもらって、それを使い回しながらホモサピエンスに進化してきたということがわかっております。その一番典型的な例が、がん遺伝子とがん抑制遺伝子という、細胞分裂を制御する遺伝子、これもレトロウイルスからもらったものですが、これがあるから、もうぶちやむくれのでぶにならずに美しい体をつくることのできる。そして、100年近くがんにならずに生きていくことのできる。これが、実はウイルスからもらった遺伝子のおかげなのです。その意味では、我々は自分の体内に生息しているウイルスのルーツと共存する生き方以外はあり得ないのだということが医学としてわかっております。

そういう意味では、国会である野党の党首がゼロコロナなんてばかなことを言っていたが、ゼロコロナというのはホモサピエンスが絶滅したときに初めて出現する環境でございます。そういう意味では、共生していくということ、ウィズコロナがもう基本の基であるというのは、50年前、私が医学部の学生のとときに学んだ教科書にある知識なのです。今それを、いわゆるメディアに出てくる専門家という方はほとんど勉強をしていないということがわかっております。

そして、もう一つ、今新型コロナウイルスと呼ばれていますように、きっとこれは旧型コロナウイルスがあるはずだということで、分子時計という技術を使って、大体このコロナウイルスは2週間に1回突然変異をしますので、ずっとルーツを遡ることができるのです。それで調べてみますと、今から130年前にロシア風邪というのがありました。このときには100万人も死んで結構すごいパンデミックだったのです。しかし、なぜか1年でワクチンも薬もないのに終息してしまいました。

そして、130年間延々と突然変異を繰り返しながら、4種類のグループで3年前まで、皆さん方が子供のころから鼻水を垂らして風邪を引いていた、コロナ風邪として日本人と共生してきたということがわかっております。そして、大体風邪を引いたときの3割ぐらいが旧型コロナウイルスだったのです。

そして、その30年後にスペイン風邪が起こるわけですが、この中で、実は四つのグループで二つはインフルエンザと同じように喉の気管の奥のほうのマイナスに荷電したシアル酸という、ツバメの巣にたくさんあるような、そういう糖たんぱくに結合するということがわかっていますが、もう一つはACE2受容体、今回の新型コロナウイルスと同じようなウイルスです。これが実は昔から、おじいさんがたちの悪い風邪にかかって死んでしまったという、あの風邪だったのですね。そして、もう一つ、229Eというのがございますが、これが今回のオミクロン株のスパイクと非常に似ているということが分子レベルでわかっております。

そういう状況の中で、30年後にスペイン風邪が流行し、このときに1億人が亡くなりましたが、このスペイン風邪もワクチンがないのに2年で終息しました。3年目はほとんど被害が出ずに、ちょうどことしのような状況だったということがわかっております。

そして今世紀になって、SARS、MERS、そして新型コロナウイルスがパンデミックになりました。しかし、これらの全てのコロナウイルスは、ウイルスであるために薬は効かない。実は50年前の学生時代に、ウイルスには免疫しか効かないのだという原則をウイルス学で学んでおります。これは、今も一つも変わっていません。その古典的な定理、ピタゴラスの定理のようなことを今の最先端の研究者、いわゆる専門家という人たちが学んでいないという非常に悲しい現実がございます。

そして、この免疫力こそが、実は130年前のロシア風邪や100年前のスペイン風邪を終息させた実行部隊だったということがわかっております。すなわち、ワクチンもなかったのに一、二年で自然にウイルスのパンデミックは消失するということが、今回のワクチンをどのように考えたらいいかということの歴史からの非常に重要なメッセージでございます。

そして、そういう状況の中で、今メディアがあおっているオミクロン株、実はこの229Eというのは、3年前までの風邪のウイルスと同じような特色を持っているということがわかっております。

では、それに対して分子で戦おうということで、一気に最先端技術をやってみますと、皆さん方の血管の中は物すごい数の赤血球が流れているわけです。そうしますと、血管の

壁はすぐに柔肌をたわしでこすったように傷ついてしまいます。そうしますと、すぐ血栓ができますので、血管の表面にはマイナスに荷電した糖たんぱくがあって、赤血球の表面もマイナス荷電が覆っているので、これによってちょうどリアモーターカーのように反発して、無抵抗で血球がわあっと走っていくということがわかっております。実はこのことが、今回新型コロナウイルスがパンデミックになった分子レベルでの理由であったということもわかっております。

実はこの血管の壁の細胞というのは、表面にACE2受容体という血圧を制御するたんぱくを持っているのです。これもちょうど私が50年前の学生時代にネイチャーに出てきた論文で、50年間血圧の制御分子だということで医学部の学生に教えていたのですが、何と3年前に、実はそれがコロナウイルスのスパイクが結合する感染のドアノブだったということがわかっているわけです。

そして、このドアノブは鍵がかかっているのですが、ウイルスが結合してこんこんとノックしますと、このスパイクをすぱっと切ってくれる。そうすると、ウイルスの油の膜が表面に露出しますから、ちょうどしゃぼん玉が融合するような反応が起こって、ウイルスと血管の壁の細胞がひっつき遺伝子が注入され、遺伝子の増幅システムが乗っ取られて、一気にわあっと遺伝子の増幅が起こる。しかも、たんぱくを合成する仕組みまで乗っ取って、このスパイクのとげとげをわあっとつくることによって、この中に1個の遺伝子が入り、一丁上がりのお餅が切れるようにウイルスに感染する。そして、これが体外に出ていけば他人にうつる。これが、ウイルスが体内に入ってきて増幅して出ていくまでのワンサイクルです。

しかし、この反応は3年前までの旧型コロナウイルスのACE2タイプでも同じように起こっていたのです。なぜ今回これがパンデミックになったかということを経験子で調べますと、このスパイクのとげとげの中に、実はプラスに荷電したアミノ酸が3個のクラスターをつくっているということがわかりました。これによって、ウイルスの表面が一気にプラス性を帯びたのです。そうすると、血管の表面のマイナスと引き合って、これだけで感染力が6倍強くなったということが3年前にわかってきました。しかも、上海でもう1カ所、マイナスのアミノ酸がなくなることによって、結果としてプラスが1個ふえた形になった。これが、実はヨーロッパやニューヨークで、感染爆発でたくさんの方が亡くなった強毒株になったということがわかっております。

そして、3年前の3月ころ、皆さん方がテレビを見ておられたら、ヨーロッパで感染者がふえて、縦軸がログで、一、十、百、千、万ですが、3月から急激にふえて、ニューヨークに飛び火してパンデミック宣言がなされたということですが、そのころ日本も保健所が一生懸命PCR検査をしていました。そうすると、確かにふえてきますけれども、世界と比べると桁違いに少ないということで、日本は新型コロナウイルス感染症を隠しているのではないかと。ちょうどオリンピックと習近平を呼ぼうということで、メディアが政府をたたいていたのですけれども、実はこの感染者というのは、世界中でその数を正確に知っ

ている医者は一人もいません。

皆さん方でPCR検査を受けた方、ちょっと手を挙げてみてください。3人ぐらいですね。陽性だった方は1人もいない。実は知らぬが仏で、皆さん方の唾液を私がいただいて検査すると、全員を陽性にすることができます。ちょっとおいしいホヤぐらいごちそうになりますと、全員を陰性にしてさしあげることもできます。実は私、現役のときに毎日PCRを使っていました。ちょっとずばらにやりますと、すぐバクテリアやRNA sが入ってきて、ばらばらになってでたらめになるのですけれども、厳密な条件で使えばすばらしいノーベル賞級の武器になります。

しかし、今の野戦病院の状態で、どんな条件でやっているか分からないときには、一気にもうとんでもないことが起こる。すなわち、PCRはすばらしい武器でありながら、意図を持って陽性にも陰性にもすることができるのです。これも後で化学的に御紹介しますが、そういうことで実はこのPCR検査の陽性者イコール感染者だということで、世界中でメディアがあおってきました。特に今回のオミクロン株で、PCR検査が無料になったところで行列をつくっていますが、日本でもPCR検査を無料にしたところは爆発的な感染が起こっています。しかし、誰も知らない感染者数。すなわち、PCR検査が陽性だったか、発熱したか、死んだか、この三つしかないのです。恐らく岩手県では新型コロナウイルス感染症で死んだ方というのは、今非常に少ないと思います。しかし、皆さん方全員がマスクをせざるを得ない状況がなぜ出てきているのか。これが議員の皆さんが本気で考えるべきテーマです。

では、死者なら間違いないだろうということで、死者を調べてみますと、屋形船をスタートに、日本でも確かにふえていきました。しかし、片対数で見ると直線になっているのです。片対数で直線になるのは、数学モデルで解ける感染症だというのは、55年前に私が医学部の学生時代にウイルス学で習った、やはり教科書の定理なのです。そのことから演繹してみますと、日本では恐らく6月から7月ぐらいに1,000人超えをするだろうというふうに思いました。

しかし、そのころに北海道の8割おじさんという方が、何もしないと42万人死ぬということで、安倍さんがもう腰を抜かして、4月7日に非常事態宣言を出された。しかし、死者数は全く影響を受けずに直線はそのまま伸びていきました。そして、この5月の連休になりますと、実効再生産数が0.3だったので、もうこれは広がらないということで解除してもよかったのですけれども、またこの8割おじさんがあおりまくって、安倍さんが仕方なしに継続してしまっただけです。しかし、死者はずっとふえて、6月を過ぎたころ、正確には7月20日に日本で1,000人の新型コロナウイルス感染症の死者が出ました。これが現実です。

しかし、そのころに指定感染症2類ということが法律として出されましたので、交通事故で死んでも、風呂で溺死しても、PCR検査が陽性だったら、これはペストと同じように保健所に届ける義務ができました。こういう指定感染症2類でいまだにやっているのは、先進国で日本だけです。

そのようなことが起こっているのですけれども、8割おじさんが予測した死者数は42万人ということで、私が4月に推測したほうが結果としては正しかったのですけれども、なぜこんなに世界と日本で死者数が桁違いなのか。これをきちっと分析しなければ、やはりコロナ禍は終わらないということで、世界中の国々の100万人当たりの死者数を見てみますと、どうも表の赤組と青組のグループに分かれるような分類が可能になってきました。

実はこの青組の下のグループは、日本のように3月ぎりぎりまで何もしなかったちんたら組です。上は、物すごく厳しくロックダウンをやった厳しい組ですが、唯一スウェーデンだけが国境封鎖もせずちんたら組に入っていたと。しかし、ふたをあけてみると、スウェーデンはEUと同じ平均的な被害があったということで、完全に赤組と青組に組が分離できるということがわかってきました。実は青組は全て東アジアの国々で、上の赤組はEUやアメリカ大陸であるということがわかってきました。そして、ウイルスには免疫でしか戦えないという、もう50年以上前からの定理を思い出せば、これはEUや東アジアの免疫的な特色に違いないというふうに私は思っておりました。

ちょうどそのころ、京都大学の山中伸弥君がファクターXということを言われて、ああ、さすがノーベル賞学者だなと思いました。ちょうど私が熊本大学から大阪市立大学へ赴任したときに、彼が薬理学の大学院生として一生懸命頑張っていて、なかなかいい青年になって、その後ノーベル賞を受賞しましたので私も非常に喜んだのですけれども、山中君、このファクターXは何だと思いますかと言いますと、いや、よく分からないけれども、とにかくジョギングのときにはマスクをしましょうなんてばかなことを言うわけです。彼は、i P Sの世界では世界のトップランナーですけれども、新型コロナウイルスについては研修医以下の知識しか持っていない。しかし、物すごく国民の信頼が厚いので、彼がマスクをしてジョギングに行ったら皆さん外せなくなる。そういうことなので、非常に残念なのですが、私が見たらこれはもういとも簡単に東アジアとEUの免疫の違いなのです。

その証拠に、例えばヨーロッパではペストで国やまちが全滅していますので、ペストに強い遺伝子集団が残っています。そして、お酒で言えば、日本人の4割は飲むと顔が真っ赤になるのですけれども、白人は幾ら飲んでも酔わないのです。これはアルコールの代謝酵素の違いだということで、赤血球、血液型も含めて、遺伝的な免疫背景によって、いろんな病原体にかかりやすい、かかりにくいということがあるということは、感染症の常識なのです。それを、今の自称専門家はほとんど知らないということがございます。

では、本当に私が言うようなことが起こるかどうか。まずそれを日本で見てみようということで、現在の生粋の日本人と最近日本へ入ってきた外国人の比率は50対1なのですが、そうすると、日本での新型コロナウイルス感染症の比率は、大体50対1の分布になるのが普通です。しかし、1,500人のときに調べてみますと、何と外国人は日本人の14倍新型コロナウイルス感染症にかかりやすいということがわかっております。そして、A型の血液の方はO型よりも1.5倍かかりやすいとか、いろんなこともわかっております。

これが、実は皆さん方、子供のころからコロナ風邪にかかってきて、コロナウイルスに

対する免疫の軍事訓練をずっと何十年もやってきたことの御褒美だったのです。私は、これを一つの神風だったというふうに言っていますが、それでもたかだか14倍なのです。EUやアメリカと比べると2桁違います。

では、もう10倍ぐらい知らないファクターXがあるはずだということで、ちょっと考えてみますと、免疫力というのは、ある病原体とそれに似たような弱毒株に反応する迎撃ミサイルなのです。それで、新型コロナウイルスに似たものという、当然旧型コロナウイルスなのです。遺伝子を調べますと、旧型コロナウイルスと新型コロナウイルスは50%類似性がございます。そういう意味では、顔が黄色で頭の髪は黒いアジア人で、中国人か日本人かというぐらいの見分けはできる。そういうのを交差免疫というのですね。だから、似たようなウイルスは同じように免疫が排除してくれる。

そういうことで、新型コロナウイルスというものの免疫が何を見ているのかということなのですが、日本人であったということだけでは14倍しかメリットがないのです。では、世界的にもう少し違ったファクターがあるのだろうということで、また毎朝世界中の論文をこのスマートフォンで確認するわけですね。そうすると、アメリカのシンクタンク、ロスアラモス研究所というところは、毎日各国で強毒株と弱毒株のウイルスがいつ入ったかというデータベースをつくっているのです。

それによると、ヨーロッパやアメリカは圧倒的に強毒株が入っている。しかし、日本を見ますと、2019年の暮れから2020年の2月にかけて、物すごく弱毒株が入っているということがわかりました。実はこれが、武漢が封鎖される数日前に500万人ぐらいの中国人が逃げ出して、その人たちが春節で北海道から沖縄県まで何百万人も旅行者として来てくれたということがわかっております。

それを遺伝子解析してみますと、武漢で生まれたS型とK型という2種類の弱毒株を中国人が持ってきて、皆さん方も知らず知らずのうちにかかっておりました。その当時ちょっと喉がおかしいとか、ごほんとせきをするような方が知り合いの中に結構たくさんおられます。そういう意味では、二つの弱毒株で2波に分かれて無症候感染した。これは、実はワクチンと同じなのです。人間が運んでくれたワクチンを知らずに2回打っていた。その後で、日本政府が連れ帰った人から、G型という強毒株が成田空港に入ってきて、屋形船で死者を出出したということがわかっております。実はこれがワクチンの原理なのです。

皆さん方もBCGは2回打ちましたね。そして、今回のファイザーのワクチンも2回打とうということなのですが、実は弱毒株、弱毒株と2回打つと、これは勉強と一緒に、学校で勉強したことをすぐおうちに帰ってあまり間隔を置かずに復習すると、記憶がばちちと入る。免疫記憶も全く一緒です。そうやって2回弱毒株で知らずに自然感染したことによって、皆さん方は世界でも有数の免疫軍事訓練を済ませた民族になっていたということがわかっております。

そういうのをちょっと地図で見ますと、K型、S型が日本へ入ってきたのは3年前の12

月。そして、K型が入ってきたのは2020年の1月から3月にかけてです。そして、皆さん方のほとんどが集団免疫を確立していたということがわかっております。このことは、去年理化学研究所が、感染していないはずの人が新型コロナウイルスに迎撃ミサイルとして作用するリンパ球を持っているというトピックスをネイチャーに発表しました。こうやって日本でも化学として理化学研究所がそのことを証明しております。

そして、上海で変異したG型がヨーロッパに行き、東回りで世界中にお祭りを起こした。安倍さんがさあ大変だということで、飛行機を準備して日本人を世界中から連れ帰ってきて、このG型が成田空港から入ってきたのです。これによって、パンデミックで大変なことが起こるはずだったのですが、もう既に皆さん方は集団免疫を確立していたので、いとも簡単にG型が排除できたということがわかっております。

しかし、K型が12月、S型が1月から3月というような詳しい日時を誰が調べたのかということなのですが、実はこれも55年前、私が公衆衛生で学んだウイルス干渉というピタゴラスの定理みたいなものがございまして、インフルエンザと風邪は同時にかかることがないというのは、昔からやぶ医者でも知っていたのです。それはなぜか。これはウイルス干渉という現象で、京都大学の上久保先生という方が最初にそのことに気がつかれて、安倍さんにもきちっとレクチャーしております。それは、コロナウイルスが入ってきますと、口の中の自然免疫で物すごい戦いが起こるのです。これによって、口の中が戦争状態になります。そのために、新型コロナウイルスに感染力で引けをとったインフルエンザが後からのこのこ来ますと、唾液の中のミサイルの流れ弾に当たって全滅する。これが過去3年間、世界中でインフルエンザが絶滅状態になった背景でございます。

それで、ちょっと皆さん方のなじみのインフルエンザでそれを勉強してみますと、いつも2月をピークに1,000万人が熱を出して医者には駆け込みます。1,000万人です。そして、1,000万人も発症する人が出るようなウイルス感染では、そのバックグラウンドにちょっと喉が痛いとか、ちょっと頭が痛いとか言いながらも、卵酒とか、あるいはもう熱い風呂に入って寝て3日で治る人が大量にいます。そういうのを計算してみますと、数千万人、恐らく8,000万人近くが、もう医者にかからずに表に出ないインフルエンザの無症候性感染をしている。これによって、集団免疫が毎年2月をピークに出来上がっていたのです。そうやって免疫の軍事訓練をすると、新しい変異株に対する交通ルールが分かるので事故を起こさずにまた高速道路を走ることができる。これを免疫の免許更新というふうに私は呼んでおりますが、こういうことを毎年繰り返しながら、インフルエンザに1,000万人かかっては封じ込めてきたのだということがわかっております。

これを3年前のインフルエンザと重ね合わせてみますと、実は武漢で新型コロナウイルス感染症が出たその直後にK型、S型が日本に入ってきて、3カ月の間に皆さん方のほとんどが免疫の軍事訓練を済ませていたということがわかっております。そして、去年ほとんどもうインフルエンザがはやらなくなったということで、実は開業医さんにとっては、冬のインフルエンザとワクチンはボーナスだったのです。それがもう去年は一人も入ら

ず、これが開業医の本当の医療崩壊だったということで、ことしは新型コロナウイルスワクチンで特需になっているわけですが、インフルエンザがなぜ絶滅したか、そんな研究を私は現役時代にやっておりました。

実は口の中にウイルスが入ってきますと、もう白血球がうわっと活性酸素を出すのです。そしてウイルスを迎撃しようとしします。新型コロナウイルスは6倍強くなった感染力でインフルエンザ以上の感染力を獲得したために、後からのこのインフルエンザが来たら、流れ弾に当たって全滅していった。これが今世界中でインフルエンザがなくなっている理由なのです。そういう状況も、もう50年前から教科書に書いてある初歩的な知識です。現代の専門家は、遺伝子しか研究していないので、そういう大きな公衆衛生的な教養がないということが非常に大きな問題になっています。

しかしながら、このときにやはりあおる方がいるわけです。そして安倍さんが緊急事態宣言を出されましたが、これをちょっと火事で考えますと、木造の家屋が焼け落ちた後に駆けつけた消防車が水を放水したのが緊急事態宣言。そして、東京都の方は、お気の毒に6月というおくれにおくれて到着した救急車が傷口に塩を塗っていった。これが、小池都政がいまだにやっていることなのです。

そういう意味では、最初の1年目というのは、新興感染症のパンデミックだから、医者も含めて過剰反応をするのはやむを得ないのです。だから、おとしまでの小池東京都知事や吉村大阪府知事、そして日本政府も、その過剰反応は医学としてはやむを得ない。少なくとも免罪符をあげてもいいものだということがわかっております。

しかし、緊急事態宣言が終わった翌月、6月に、これは感染力が6倍強くなった普通の風邪のウイルスであるということが、ニューイングランドジャーナルに報告されました。すなわち、化学としてもうこれは感染力の強い風邪であるということがわかった段階で、その風邪対策以上のことをやると、医者の場合には誤診で訴えられたら負けます。そういうことを、政府を指導する専門家会議というのが、私から見るともうほとんど化学のない集団がやっている。それによって、船頭さんがおかしな指令を出すと、菅さんが山の上にはあつと担架をのし上げてしまった。そして、挙げ句の果てには、退陣せざるを得なかったという姿が見えてくるはずですよ。

なぜそういう過剰反応をしたのかということを見ますと、これが実はPCR検査で見て、波ごとに高くなっている。2週間後には東京都がもうニューヨークのような修羅場になるということであおりにあおられたのですが、実は目に見えないようなゼロ波が3年前に来ていた。そして、これによって無症候性感染で集団免疫ができた。そして、G型の第1波が来たときには大量の死者が出るはずだったのが、集団免疫で封じ込められてしまったということがわかっています。

しかしながら、このころに東京大学の非常に優秀な児玉君という、私の研究仲間なのですが、彼が国会で、何もしなかったら2週間後はニューヨークが東京都に引っ越ししてくるということで、涙ながらに訴えたのを恐らく皆さん方も見られたと思いますが、これが

8月の直前に言ったことなのですが、8月に鳴いたのはセミだけだったということになるわけですね。あろうことか、同じころに京都大学の山中君が8割おじさんと対談して、何もしなかったら10万人死ぬということをおっしゃってしまいました。

しかし、波はどんどん高くなるけれども、この陽性者数と死亡者数の関係を見ますと、もうどんどん、どんどん波ごとにリスクは下がっていく。これも感染症の基本の基です。なぜか。免疫の軍事訓練をすることによって、大概のウイルスを排除できる能力を皆さん方は持ってきているのです。だから、実は絶対的な弱毒株とか強毒株というのはありません。皆さん方の免疫力に対して、かかったウイルスがどのくらい学習していくか。この学習の有無によって、弱毒株か強毒株かが決まるわけですね。そういうことは、もう教科書で書いてあるのですけれども、なぜか今世界中がそれを忘れてヒステリー反応を起こしている。

しかしながら、海外を見ますと、確かに日本よりも100倍死者が多い。そこで、感染した日から死者数と日にちを全て同じようなログで取ってみますと、感染直後から必ず死者数がふえてきますが、あるところからすっとなくなるのです。そして、これは日本だけではなくて世界中で、ピークになるとなぜかつるべ落としのように落ち込んでしまう。これが波ごとに世界中で起こっています。そして、ウイルスには免疫力しか効かないのだということを考えますと、これは、そのとき、その国、その集団の中で集団免疫が確立されて、それ以上感染が広がらなくなったという、もう教科書どおりの現象が世界中で起こっているということがわかってきました。

そして、もう一回新型コロナウイルスのゲノム解析をやってみますと、コウモリの中では数種類しかないのですけれども、これが人に感染しますと3万個のアルファベットでできた遺伝子が2週間に1回、世界中で同時にランダムに突然変異する。だから、今ではもう万を超えるウイルスがそこら中に、皆さん方の家庭のトイレやベッドルームにも潜んでいます。もう既に世界中がトロイの木馬状態になっているのだということがわかっております。

そういうことで、第1波、第2波、第3波、第4波、第5波、夏まで見ますと、第1波、第2波、第3波、第4波と波ごとにだんだん、だんだん高くなりますが、これを見ると本当に心配になるのですが、デルタ株の第5波ですとなくなったのですけれども、波は高く、死亡率はますます低くなっているということが化学的な事実です。

そして、去年デルタ株は急激に終息したので、専門家がなぜ終息したか分からないということで誰も説明できなかったのですけれども、実はこれこそが感染力が強いから、早くかかって早く集団免疫ができて収まっていったという、ちょうどインフルエンザの2月をピークにして起こってくる現象と全く同じなのだということがわかっております。

しかし、テレビに出てくる専門家が、それはワクチンのおかげですというふうに言うのですけれども、第1波、第2波、第3波、第4波、波は低いけれども、全てワクチンのないときにも必ず終息しているのです。これはもう世界中ワクチンと無関係にピークが終息

しているということは事実でございます。

そういう意味では、第5波だけをワクチンが行き渡ったからワクチンのおかげだというのは、あまりにも御都合主義であると思います。化学ではあり得ないことを平気で専門家と自称する人が言っているわけです。そういう意味では、今までの行政がやってきたことは、常にピークアウトして下がるころに、人流抑制とかいろいろなことをやっております。そのために、政策で効いたのだという誤解を、真面目に一生懸命信じ込んできたのがこの2年間だったということになります。ちょうどこんなマスクを全国民がやって、真面目に一生懸命やって、竹やりでグラマンを落とそうという、あの75年前のことを真面目な日本人が一生懸命繰り返しているということが見えてきます。

そして、もう一回ゲノムの感染力を見ますと、武漢型、3年前のウイルスは6倍の強さになった。その次に去年の第5波でさらに倍、12倍強い感染力を持った。そして、今回のオミクロン株、今まで3カ月ぐらいかかっていたのが、10日で50%がかかる。だから、日本に入ってきてもう1カ月以上たっていますので、50の50の50というログで、もうほぼ北海道から沖縄県までオミクロン株が圧倒的に凌駕しております。

そういう状況の中で、もう一回アルファ株からデルタ株までを復習しますと、アルファ株が見つかったのは2020年の9月。3カ月後にはもうイギリスで自然免疫が確立しています。それが日本で見つかったのは、おととしの12月1日。そして、去年の7月のオリンピック直前は、もう8割方、皆さん方の家庭のトイレを遺伝子解析すると、ほとんどが英国株と言われているアルファ株になっているのです。こんなときにオリンピックをやるのはけしからんということで、またメディアがあおりまくったのですけれども、無観客でしたが、オリンピックを開いても誰も死ななかつたというのが現実です。

そして、日本ではアルファ株はもう脅威にならないということで、今度メディアはインド株を持ってきたのです。これがデルタ株です。そして、これはプラス荷電がもう二個ふえたので、旧型に比べて感染力はさらに12倍強い風邪になった。しかしながら、インドの実態を見ますと、もう今や去年の暮れに7割が免疫を持っている。しかし、インドでのワクチンの接種率はいまだに22%なのです。ですから、70%の集団免疫を形成したのは、自然感染であるということがわかります。

こういうことで、世界中ちょっと常識を働かせたら、私が学生時代に習った自然感染こそが最良の免疫的な防御反応だと。ワクチンはスパイクだけですからね。スパイクに対するミサイルはあっても、それ以外のところには何も武器を持たない。これが、実は今の遺伝子ワクチンのアキレス腱です。

そして、このデルタ株がイギリスやアメリカに入ったのは2月20日過ぎ。そして、9カ月後には、ジョンソンさんがイギリスはもうばからしいからノーガード戦法でいくと。その理由は、一応ワクチンが2回国民に行き渡ったので、もうこれ以上は無駄なことをしないようにしようということで、ノーガード戦法になったのですが、実はイギリスは3年前スウェーデンと同じようにノーガードでいこうとしたのですね。ところが、メディアがぼ

ろくそに言って、ジョンソンさんが仕方なしにロックダウンしてしまった。しかし、2年たって比べてみると、もうスウェーデンだけが独り勝ちしたということで、2年前の自分の決断が正しかったということで、そのことから去年の8月にもうロックダウンを一切しないということになったわけです。

実はデルタ株が日本に入ってきたのは去年の4月25日。これが半年後には、もうほとんど死者が出なくなっている。そして、今回のオミクロン株を迎えているということが分かるわけですが、いまだに政府の専門家の言うことは人流抑制。しかも、尾身さんは効果がないとわかっているにもかかわらず、こんなばかなことを言っているわけです。それを実はメディアがあおるだけでなく、自治体の長があおりまくっている。まさに流行語大賞を幾つも出している。挙げ句の果てには、カポネまで禁酒法を出していたと。しかし、これは東京都だけでなく大阪府も負けていません。イソジンなんてくそみそに言われましたが、実はこのイソジンは効くのですよ。今最もこれの有効な使い方、PCR検査のときにこれですぐらぺっとやると、大抵唾液のPCR検査が陰性になります。そのぐらい効くから、何十年もイソジンが使われてきたのです。

そういう状況で、今や全国民が1億総コロナ脳になっている。そして、こういう状況のときには、厳しい政策を出すとうる気が上がるのです。これを取り入れたのが今回の岸田内閣。それはなぜかという、もうみんな思考力を放棄して強いリーダーを求める。これが、80年前にこの方を誕生させた。非常に民主的な手続で誕生したのがヒトラー政権だったのです。

そういう状況で、もういろいろな対策をやると。そして、今回もまた緊急事態宣言とか出そうですが、これは全て壮大な空振りであったということが化学としてわかっております。それは、やり方がぬるいのではないかと言いますけれども、東アジアではきつなくても緩くても1桁台。そして、ちんたら組に入ったスウェーデンは、EUであるがゆえにEUの平均的な感染者が出た。しかしよく見ますと、これは右肩上がりなのです。ウイルスは人から人にうつるという原則がございますので、ソーシャルディスタンスや行動制限を厳しくやれば、必ず右肩下がりになるというのが今までの100年間の感染症の常識でした。しかし、なぜか今回の新型コロナウイルス感染症は、厳しくやればやるほど被害が強くなる。もう従来の感染症の常識をひっくり返すようなことが起こっているために、常識をきっちり守ってきたあの専門家集団はなぜか分からないという、1億総白痴状態になっているのが今の医学界です。この秘密を解かない限り、新型コロナウイルス感染症は終息しません。

では、解いてみようということで、今常に尾身さんが言う3密、8割減、人流抑制とは何か。これは人口密度なのです。だから、3密とは、同じ時期に同じ場所にこうやって集まるのを3密というのです。これは人口密度であると。では、国々の人口密度を比べると、米国やスウェーデンは何もしなくても95%減。しかも、山手線や御堂筋線なんかはないのです。もうほとんどが車です。だから、もう過疎地を生きているのがスウェーデンや米国なのです。さぞかし感染者やリスクは低いだろうということで、100万人当たりの死亡者

数で比べますと桁違いに多い。このグラフ1枚を見たら、人流減は意味がないということは小学生でもわかります。

しかし今、専門家や政府、行政はそれが分からないような思考力に陥ってしまっているということが見えてくるわけです。そういう意味では、人口密度と死亡率は全く関係ない。すなわち、この3年間、我々はこういうマスクを一生懸命やってきたのだということがわかります。

それをあおったのが、実はこのコロナの女王というおばさんなのですね。もうPCR検査、PCR検査といまだに言っていますが、実はおとしPCR検査の国際論文が出ております。そして、2、4、8、16というふうに遺伝子のかけらを増幅していきまると、20サイクルまでに陽性になれば、これは唾液の中に感染力を持った新型コロナウイルスがいます。しかし、それ以上増幅すると、もうかけらばかりになる。そして、35サイクル以上やると、もう感染力を持ったものはほとんどないということで、あのWHOですら35以上やったらあかんと言っているのです。それを、何と日本人は真面目なのですかね。狂牛病のときに、1頭たりとも入れませんと全頭検査を主張して世界からばかにされましたけれども、同じように今回45サイクルまでやっている。45サイクルというのは、1個の遺伝子のかけらが見つかったということなのです。通常感染するには、1万個ぐらいの遺伝子がないとかかりません。そういう意味では、唾液で今新型コロナウイルス感染症にかかろうと思ったら、35サイクルですと、コーヒー1杯分の唾液を飲まないで駄目ですね。そして、40サイクルでかかろうと思ったら、大体500ミリリットルのペットボトル1本分の唾液をもらわないと口からはかかりません。これ1本といたら、幾ら好きな人でも1カ月ぐらいキスしっぱなしになっていないと感染しないということなのです。

ですが、そこに新型コロナウイルス感染症の秘密がございます。そして、皆さん方も含めて、日本中が土器のかけらを見つけて、フルサイズの火焰土器が見つかったと言ってお祭りをやっていたのがこの2年間だった。そういうことから、実はこのPCRの発明者でノーベル賞をもらったキャリー・マリスが、PCRをウイルスの診断学に使ってはいけないという遺言を残して、パンデミックの3カ月前にお亡くなりになっているのです。彼が生きていたら、PCRは新型コロナウイルス感染症の診断に使っていません。そういう悲劇が、彼の死は非常に残念なのですけれども、そんなことを言っても仕方ありませんが。

私は現役時代に、なぜ口の中のコロナウイルスはかけらなのかという研究をやっていたのです。実は口の粘膜というのは非常に柔肌なのですね。だから、ちょっと堅いような、昨日はおいしいエビの天ぷらをいただきましたけれども、あのエビの殻で柔肌がもうこすりまくられて、御飯のたびに目に見えない無数の傷ができるのが口腔粘膜なのです。食べ物には、常に細菌や病原体が入っています。そして、傷口から入ろうとするのです。そうすると、御飯のたびに下痢をしてしまうのもう餓死してしまう。実はこの傷口から、活性酸素を産生しつ放しの神風細胞と呼ばれている白血球がうわっと出ているのです。皆さん方の唾液の中で、今も数百万個の神風細胞がパトロールしています。その活性酸素の量

を計算しますと、1分間に数百兆個の遺伝子をばらばらにするような能力を持っているのです。すなわち、口の中の唾液は、活性酸素のミサイルが飛び交う戦場なのです。

子供が傷ついたらお母さんがなめてやる。これは、人間も動物も同じですね。あのなめるといふ行為は、実は無意識の感染症対策だったのです。そして、好きになったらぶちゅっとやってしまう。あれも実は唾液の中に共生している微生物の免疫情報を無意識にセンシングする遺伝子の継承システムとして、人類がずっと獲得してきた愛の行為であるということも、今ゲノムレベルでわかっています。

そして、皆さん方も昔子供のころ風邪を引かれたら、おばあちゃんが喉あめをくれましたね。あの喉あめというのはグルコースです。このグルコースは糖分だから、この神風細胞が活性酸素をつくるためのガソリンになるのです。だから、喉あめを食べると非常によくなる。だから、飛行機なんかでも喉あめを必ずスチュワーデスに言うともらえますね。私も昨日伊丹空港から来るときに、二つあめをいただいて、それをなめながら来たのです。これはオミクロン株に物すごくよく効きます。

しかし、これを富岳で画像を撮りますと、こんな格好になるのです。そんなところを毎日のぞき込んでいる歯医者、毎日新型コロナウイルス感染症に感染しているはずですが、新型コロナウイルスに感染した歯医者は全国でいません。耳鼻科医も新型コロナウイルスに感染しません。彼らは新型コロナウイルスに感染しない職業なのです。なぜか。口の中に新型コロナウイルスのスパイクのとげとげがいっぱいあります。それを粘膜免疫で毎日軍事訓練しているのです。しかしながら、皮肉なことに歯医者に来る患者さん、特に歯槽膿漏のある人は、この歯の傷口から新型コロナウイルスが入って、20倍新型コロナウイルスに感染しやすいということがおととしの国際論文に出ています。この一つから物すごく重要なメッセージがあります。歯ブラシをきちっとやるだけで、新型コロナウイルス感染症は20分の1に予防できるということです。だから、高齢者施設、おじいちゃん、おばあちゃん、特にハイリスクと言われている人たちに、ちょっとオーラルケア、口腔ケアを行政が丁寧に紙1枚で伝えるだけで、新型コロナウイルス感染症は20分の1になるということなのです。こういう情報こそが、県議会が県民に向かって発信すべき情報です。

そして、2年前の6月にニューイングランドジャーナルに出たのは、皆さん方が毎日使っている家庭のもの、例えばスマートフォン、あるいは枕カバー、そしてベッドルーム、テーブル、そこに新型コロナウイルスをぱっと吹きかけて温度と湿度を下げると、どのくらい体外で感染力が維持できるかということをやりますと、何とガラス表面、すなわちスマートフォンの表面では、冬の寒いきょうのような日だと2週間以上感染力を維持できるという論文が出ているのです。そして驚いたことは、N95、物すごく安全と言われていたこのマスクに吸着した新型コロナウイルスは、一番長生きできるという皮肉な結果が出ています。そういう意味では、これが実はハイリスクになっています。そして、去年の暮れに、マスクをしている人のほうが新型コロナウイルスに感染しやすいという国際論文が出てきたのです。これぐらい我々は、もうすったもんだの3年間を過ごしてきて、その挙

げ句、本来のマスクはこんなマスクだったということになるわけです。

ですから、ボタンを掛け違えたら、最後までつじつまが合わない人生を世界中が送っている。しかし、これは風邪ですので、しかも感染力が強くなった風邪ですから、幾ら努力してもかかるときにはかかる。そしてかかったら、この2年間専門家があおってきた後遺症ということで嗅覚が分からなくなる。大変だと言っていますが、昔から風邪を引いたときには、おばあちゃんのみそ汁の濃さが変わっていた。すなわち、風邪なのです。そして、それはこういう鼻や味覚の粘膜のところにACE2受容体という感染受容体があるからなのです。しかし、2年前にその受容体を全身で測ってみました。そうしますと、喉や舌にあるのは保育園クラス。圧倒的に腸にあるのです。新型コロナウイルスは口から入ってきます。そして、一旦歯周病とかの傷口から血球に入ると、腸の血管に感染してそこで血栓をつくる。そして血管を破ると便と一緒に出てくる。すなわち、ふん口感染であると。これはノロウイルスと一緒にです。

実は20年前のSARSのときに、SARSもふん口感染であるということは、論文できちっと証明されています。だから、おとしの屋形船のところにトイレへ行きますと、水を流すときは便座のふたを閉めてくださいという貼り紙がありました。そして、手を洗った後にジェットの水で水滴を飛ばすエアータオルというものも中止されましたね。実は3年前、日本もきちっと行政は新型コロナウイルスがふん口感染する、トイレがホットスポットだということはわかっていたのです。しかし、その後に富岳の映像を見せることによって、一気に空気感染するという脳のバグが発生してしまいました。それが今皆さん方にマスクを外せない毎日を送らせているのだということなのです。

だから、マスクはお尻にしないと無意味だというギャグが出てくるわけです。そうやってちょっと解剖を見ますと、実は腸の壁というのは物すごい血管のネットワークで、ストッキングのような血管がございます。この中に腸の細胞や腸の筋肉の細胞が入っているのです。そして、新型コロナウイルスはこの血管を目指して、血管が破れるとそこで血栓ができて、肝臓がまずフィルターになって、そこをすり抜けると肺で、CTで撮るとすりガラス状の状況になっています。しかし、肺は半分あっても十分なのです。他人に臓器移植ができる。しかし、その閾値をちょっと超えると、昼まで元気だったじいさんが夕方のがたがたと来ると。それで、大変だということを言っているのですけれども、こういう形でこの血管が破れることで、トイレから新型コロナウイルスが出てきていたのだということは、実は19年前から化学的事実としてわかっています。そして、本当の専門家はそれを知っていますけれども、ほとんどそれがもう情報として発信できないような状況になっています。

そして、これは2年前のパソロジー、病理の論文に出て、案の定、口の中にある新型コロナウイルスは幼稚園レベルで、圧倒的に腸にあるのです。20倍です。だから、便座とドアノブが最も強力なホットスポットであり、トイレで広がっていく。入り口でアルコール消毒をやっていますけれども、何の意味もありません。トイレの中に消毒液を一つ置くだ

けでいいのです。便座のふたを閉めてくださいというのがありますが、これを今富岳で見ると、トイレはこのような状態になるのです。そうすると、もう誰も怖くてトイレに行けなくなるということなのですが、実はトイレこそ究極のアンチ3密空間なのです。時々2人で使われるタレントの方もいらっしゃいますけれども、通常は1人でしか行きません。女子はトイレが好きなので、特にトイレスマホということで長くいるわけです。そのときスマートフォンに新型コロナウイルスが付着すると、今の季節だったら二、三週間感染力が維持しますので、どこかでもらったら必ず伝播していくわけです。

しかも、時差を持って感染する。これが新型コロナウイルス感染症の秘密です。だから、人流を幾らとめても、もう既にトロイの木馬が入ってきた後でドアを閉めなさいというふうに一生懸命やっているにすぎない。だから大事なことは、トイレの前後に便座とドアノブの内側をシュッと消毒するだけで、新型コロナウイルスは20分の1に激減します。だから、オーラルケアをやって、トイレを消毒するだけで400分の1に新型コロナウイルスは激減します。もうこれをやれば、人流をとめなくても、居酒屋で酒を何時までなんて、あんなばかなことをやらなくても、その日から新型コロナウイルスは終息してしまいます。

しかし、これは風邪ですのでいつかはかかります。かかったら、短距離ミサイルのIgMという抗体が出ますがすぐなくなります。そして、長距離ミサイル、これは重症のときには敵がいるからミサイルを打ちっ放しにするのですね。しかし、御存じのように、今回の新型コロナウイルス感染症は8割以上が無症候性感染。皆さん方のほとんどはかかっていけれども気がつかない。そういうときには、敵もいないのに高価なミサイルをぶっ飛ばすようなことはしません。北朝鮮が時々上げていますけれども、今回は圧倒的に敵がない状況なので、血中の抗体は1カ月で半分になります。だから、3カ月で1割。1年たったなら1%以下ですので、風邪は毎年かかります。

しかし、免疫記憶がありますので、かかるとすぐその日のうちに迎撃態勢を確立してミサイルを打ち始めますから、3日寝ていたら風邪は治っていたという、我々が何十年も経験してきたような風邪の実態が今分子のレベルで見えているのです。だから、今度皆さん方がかかると、オミクロン株ではほとんど気がつかないで、万が一、次に変異株が発生したときには、かかったその日のうちに長距離ミサイルが出るような状態に岩手県民もなっています。

実はこれは、2年前の7月に東京都民でやった抗体検査なのです。測ってみますと、4波のときにほとんどの都民が高濃度のIgGを出しているということで、この意味するところは、まだワクチンが全く行き届いていなかったときに、もう既に都民全員が生ワクチンの接種をしたのと同じ状況にあったということがわかっております。

しかし、免疫の抗体がすぐに減ってくるということを見た専門家という人たちが、誰も感染しておらず集団免疫ができていないということでばか騒ぎして、次から次におかしなボタンの掛け違いをやっているということが見えてきます。

そして、これは先ほどつくった最新のデータです。これがスパイクで、これがACE2

という血管の壁なのです。そして、このRBDというのはレセプターバインディングドメインということで、感染受容体にくっつくところです。そして、ここが実は2週間に1回突然変異しますから、物すごくスピーディーに変化していきます。しかしこの受容体と結合するところに抗体ができますと、これを中和してくれるわけです。これがワクチンのできるのですけれども、2週間に1回の変異スピードですから、アルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株、どんどん変異が進みますと、もう抗体が効かなくなる。さあ、大変だというのですけれども、まだほかにいっぱい抗体がくっつく場所があるのです。これは交差免疫、ここに抗体がつかますと白血球がこれを認識して、細胞の中に取り込むのです。そして、細胞内の胃袋、これはライソゾームと呼ばれる胃袋が細胞の中にあるのです。そして、ばらばらにしたたんぱくのかげらを細胞の表面にぽっと出して、これが異物だということをやりますと、リンパ球が学習して免許を更新すると。そして、免許を更新したリンパ球が抗体をつくり出すと、このアルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株の変異した部位にぽっと抗体をつくって、また中和してくれる。これが自然感染していけば、次から次に新しいミサイルを無料で調達できるということが実態です。

そして、50年前、私はいわゆる生ワクチンをつくっていたのですけれども、それが遺伝子組みかえで大腸菌にスパイクができるということで、いとも簡単にワクチンができるようになったわけですが、今回のワクチンというのは、もうそんなまどろっこしいことをやらずに、いきなりDNAかRNA、これを油で包んで、その表面にウイルスのスパイクか、あるいはポリエチレングリコールという人工物をコーティングして、これを注射するのです。そして、注射すると、このDNA、いわゆるアストラゼネカ製のは、ワクチンと呼んでいますが、これはワクチンではございません。この50年間失敗を重ねてきた遺伝子治療薬なのです。だから、これは注射すると必ず皆さん方の体の細胞の核の中に遺伝子組みかえで入ります。そして、核の中にちゃんと入ったものからメッセンジャーRNAができて、これがたんぱく質に読みかえられて、これに対して免疫系が発現するのです。だから、遺伝子の組みかえ食品はけしからんなんて言っているのだけれども、自分自身を遺伝子組みかえにする行為がアストラゼネカ製のDNAワクチンであります。政府は、これを決して説明をしないのですけれども、これは医学部でなくても、理学部で生物を習ったら、高校生だったら誰でも知っている事実です。

そして、今回メッセンジャーRNAはファイザーやモデルナなのです。メッセンジャーRNAは、すぐに分解されて消えていくから安全だということを言っていますけれども、これは自然にDNAから出たものだったらそのとおりです。しかし、今回はAGCUという、ウラシルというところを化学修飾して、物すごく分解しにくいようにしています。そのために、超長時間スパイクをつくり続けて、ワクチンとしての機能が上がってくるわけです。これはすばらしいデザインなのですけれども、こういうことで大阪大学の免疫学の権威という先生が、3年前はいや、こんなものは安全性が分からんから私は打ちませんとおっしゃっていたのですが、去年からもうこれはすばらしい、打て、打てということで、

打たない選択肢はないというふうに二重否定して、今積極的に打っておられます。

しかしながら、私はそういう論文をずっと査読してきたので、ちょっと待てよと。このアストラゼネカのワクチンは、半永久的に遺伝子を自分の細胞の中に入れてしまう遺伝子組み換え薬だと。この異物が全身でできると、それをつくっている細胞は免疫の攻撃対象になるのです。あらゆるスパイクをつくっている細胞が自己免疫疾患のターゲットになるという可能性に気がついたので、ちょっとこれを見てもみますと、実は皆さん方、筋肉に今回の遺伝子ワクチンを注射するわけですが、これを解剖しますと、筋肉の細胞でスパイクをつくるという説明をしていますが、これはうそです。筋肉の細胞というのは、指ぐらいのサイズを筋肉細胞とすると、注射器にしたらげんこつぐらいなのです。どう頑張っても、細胞の中に注射の針は刺さりません。だから、注射をすると、細胞と細胞の間があいて、この細胞の外の空間にスパイクの液体が行くのです。これは、リンパ空間と呼ばれています。そして、筋肉はポンプですので動かしますと、実はリンパのほうから脇の下、腋窩リンパ節のほうへ行って、ここが結構腫れてくるのです。

しかしながら、大部分はそこを乗り越えて、首の静脈のところから30分後に全身循環に入ってきます。それが、実は注射した30分後にアナフィラキシーショックが起こる理由なのです。注射して1日、2日たって起こるアナフィラキシーショックはありません。ピーナツでも、そばでも、食い終わったところにアレルギーが始まって、エピペンを持ちながらそばを食うわけですね。これがアナフィラキシーショックの理由です。

そして、私は30年前、このポリエチレングリコールという物質の研究を熊本大学でやっていました。実はこれはもう全身に回るのです。注射して5分で消えていくたんぱく質にポリエチレングリコールをコーティングすると、3日間血中を半減期循環します。だから、今回の遺伝子ワクチンのあのナノ粒子は、PEGをつけることによって大体1カ月ぐらい人体の血流の中を循環し得るということがわかっております。

そういう状況の中で、もうどんどん、どんどん、ブースター接種までワクチンをやっているのですけれども、これはちょっとおかしいというふうに気がつきまして調べてみますと、メッセンジャーRNAは、まだ第3相も第4相も済んでいない治験薬なのです。だから、教習所に行って練習せずに仮免許をもらって、いきなり高速道路を走りなさいと言われているのが、今皆さん方が打っているワクチンです。

そして、御存じのように、新型コロナウイルスに感染するとACE2受容体、血管の壁ですから、血栓症が本質なのです。これは肺炎ではありません。インフルエンザは肺の中から起こる炎症で肺炎です。しかし、新型コロナウイルスは血栓で肺が詰まったので、肺の中のほうはインフルエンザと無縁なのです。そして、スパイクが血栓をつくる毒であるということが、去年の4月にポリオワクチンをつくったソーグ研究所、そしてサーキュレーションリサーチという循環器のトップジャーナルにその論文が出ました。これを読んだとき、私はびっくりしました。

しかし、非常に残念なことに、この2年間医学会はほとんど開かれていません。全部リ

モートなのです。通常は、毎年学会で勉強しないと専門医を更新してもらえません。しかし、去年からスマートフォンでエントリーして、マイクもカメラもミュートにして、2時間たったら、はい、御苦労さんということで、専門医が自動的に延長されます。だから、この重要な論文が日本のほとんどの医者に周知されていない。もちろん専門家の大半も勉強していません。

そして、残念なことに、去年の10月1日までに表に出ただけでワクチン接種者の1,233人が亡くなっています。これは、厚生労働省の副反応被害のリスト、これは1,000ページ以上ありますが、これを見ると死んだ人はほとんどが血栓か血管の病気。くも膜下出血とか心筋炎とか、そういう血管の病気で死んでいます。そして、DNAワクチンは、そういう状態をパーマメントにセットすると。死ぬまでこれと付き合うことになる。

そして、メッセンジャーRNAは安全と言われても、これは、実は卵巣や精巣に集まるということが厚生労働省のデータで読むことができます。そして、皆さん方や子供さんも含めて、5回以上無症候性感染でワクチンをやったのと同じ状態にあるのに、何を今さらこんな危ないワクチンを打つ必要があるのかと。それを今、一生懸命だんだん、だんだん年齢を下げてきたこの1年半であるということになります。

そして去年、セルという最高峰の論文に、ワクチンを打つと抗体によって感染爆発が起こるということを日本人の血液で証明した論文が出てきました。これを見た途端に、これはもうレッドカードを投げないと大変なことになるとというのが医学の常識です。

そして、このDNAスパイク、実はポリエチレングリコールの表面にプラスに荷電した場所があるのです。これがヒスタミンを出す細胞の表面に結合しますと、ヒスタミンが出てショックが起こる。これがアナフィラキシーショックですけれども、こんなものは今回のワクチンでは保育園レベルのリスクです。一番怖いのは、やはりDNAワクチンです。政府もこれを知っているから、今アストラゼネカ製のワクチンは8,000万人分が日本に備蓄されていますが、日本人に使わずに、お隣の台湾へ去年差し上げたのですね。これはなぜかという、北欧がこんなもの要らぬということで、行き場を失ったために日本枠になった。安倍さんもこれを知っているから、台湾が欲しいということで差し上げたということで、これは今後いろんな日台問題として、正気に返ったときには、非常に大きな負の遺産になると思います。

そして、メッセンジャーRNA、これは物すごく働き続けます。そして、これが強毒なウイルスや感染した細胞を殺してくれるだけならいいのですけれども、このスパイクは血中を介して全身に回りますが、血管には何があるか。ACE2受容体があるのですね。ここに体内で生産されたスパイクが結合した途端に、その場所で血栓がつけられる。そして、血管は全身のどこにでもあります。ただ、今回のワクチンは、今まで医学が経験したことのない、あらゆる場所でスパイクによる血栓ができる初めての病気であるということがわかってきました。そして、これを厚生労働省にあるデータから、私が片対数でどういう体内動態をするかということ調べてみますと、薬理的には薬効が出たり副作用が出たりす

るところの半減期が、大体、人では1カ月ぐらいあるということがわかってきました。

これはあまりにもひどいということで、医者仲間に伝えて、6月24日に厚生労働省に、ちょっとこれ、とどまってチェックしましょうという申し入れをしたその日のうちに、担当大臣とおっしゃる方が、医者ともあろう者がデマを流しているということで、ブログと翌日のNHKを使って放送されました。そして、不妊とか、卵巣には蓄積しないというふうにおっしゃったのです。では厚生労働省のデータを見てみますと、実は300時間まで調べていて、48時間、すなわち2日後の卵巣の集積を見ますと、これは0.1%2日間で集積しています。打った量の0.1%だから、こんなものは蓄積とは言えないというふうに河野さんはおっしゃったのですが、1.5キロの肝臓で15%なのです。ピンポン玉の数十グラムのところには0.1%のナノ粒子が集まるというのは、これは薬理の常識を持った人だったら、物すごい量が集まっているという解釈をしなければプロではありません。

そして、この血中半減期が1カ月近いということは、登山でいうと2日というのは1合目なのですね。だから、さらにどんどん上がっている。しかし、どこまで上がっているかということは、ファイザーの人しか知り得ないのです。我々は、厚生労働省が出しているしょぼいあの副反応被害だけということしか見えないのですけれども、それでもまだこれは治験が終わっていないということで、卵巣に確実に集積するワクチンであると。そして、卵巣がスパイクをつくると、そこが免疫の攻撃対象になりますから、打てば打つほど卵巣の卵がない女性が生まれてくる。そして男性の場合は、まともな精子ができない状態が打てば打つほどできてくるのだということが初めてわかったわけです。

そういう状況のものを子供に打て、そして妊婦にも打てと。挙げ句の果てに、10月1日時点で千数百人死んでいるのですけれども、新型コロナウイルス感染症で死んだ子供は1人もいません。そういう状況のものを、じいさんやばあさんを守るために子供に打てなんて、日本人の常識はどこにぶっ飛んだかと思うようなことが、今専門家も含めてヒステリー反応を起こしているのです。

そういう意味では、この打て打て一本打法ということでやっていますが、実はワクチン接種した直後から何が起きているかということを見てみますと、実は打った日に50人、2日目に150人、3日目に70人、そして1週間ぐらいすると30人が亡くなるということで、大体751人が1カ月以内に死んでいるのです。それに対して河野さんは、日本人は年間138万人死ぬ民族である。だから、365日で割ると毎日3,800人死んでいるから、100人や200人は誤差の範囲で偶然だというふうにおっしゃったのですが、この751人を1カ月分で割った25人が毎日フラットで死んでいればこれは偶然です。しかしながら、打った日と翌日にピークが来て、1週間で死者がいなくなる。こんなものが偶然であるはずがない。しかし、どこにそれがワクチンのせいだというエビデンスがあるかというふうに専門家が言うわけですね。しかし、例えば激流や溶鉱炉に飛び込んだら、人間でもネズミでも死にます。どこにそんなエビデンスを書いた論文があるのか。こんなばかな論文、誰もしませんね。今や日本人や世界が常識を失った状態ではばか騒ぎしているということが見えてくるわけです。

しかしながら、メッセンジャーRNAでも打って一月ほどすれば、死者が出なくなるというのが世界中でわかっております。そういう意味では、もう2回打った人が日本人8割以上いますので、1カ月たった方々はそんなに心配しないでください。そして、スパイクの毒性を出さない方法があります。一番大事なのはもうこれ以上ワクチンを打たないこと。これは、大人しかとめることができません。

これをもう一回グローバルに見ますと、おとしは新型コロナウイルス感染症のおかげで、インフルエンザで死ぬじいさん、ばあさんが1万8,000人少なくなって、戦後75年ぶりに人口減少がとまった1年間だったのです。そのとまり具合は日本が世界一です。東アジアの9カ国だけ超過死亡数が減っているのです。

ところが、去年の1年間に何が起こったか。1月から毎月5,000人から、多いときで1万人亡くなっている。それで、この超過死亡数は、去年いっぱいでも今や6万人近くふえているのですが、これも50年前私が学生時代に習った超過死亡の読み方、去年までなくてことし始まったものがこの増加分だという読み方です。新型コロナウイルス感染症ではないかということなのですが、新型コロナウイルス感染症は3年前からあるので呼びではないと。去年始まったものは、ワクチン以外はないのです。ただし、この五、六万人が全部ワクチンかどうかはわかりません。ワクチンプラスでシングルマザーが御飯を食べられなくて飛び込んだというケースがたくさんあります。それは、なぜか今メディアにほとんど出てこない。

そういうものを含めて、この5万人以上の超過死亡数が、この方の功績としてこれから正式なデータとして分析されます。だから、もう政府も隠し切れなような状況になっている。実はそれが、DNAワクチンが手元にあるけれども打たないという状態なのです。

しかし、実はワクチンメーカーとの契約がもう物すごい状況になっていまして、そういうものを含めて、これは18年前のSARSで抗体ができると白血球が取り込んで、ますます感染爆発を起こすということがわかった論文ですが、もう一つは大阪大学の先生が出した、このスパイクの一部分に結合する抗体が今日本人でできつつあります。これがスパイクに結合すると、結合部位がわあっと伸びるのですね。そして、感染増強してしまう。そういう状況で、スパイクの赤いところにくっつくものができる、普通のコロナ風邪でも感染増強してしまう。こういう状況が今日本で始まりつつあります。

そういう状況の中で、今オミクロン株が始まっているのです。このオミクロン株をどう考えるかという前に、まず世界の直近の歴史を見てみましょう。シンガポールは御存じのように、トップランナーでワクチンを打ちまくったところ。そして、3回打ったところでどんと感染爆発が起こっているのです。これはイスラエルも同じです。日本もあつという間に2回打ってしまった。そしてデルタ株を迎えたわけですが、そういう状況の中でワクチンを打ち続けるとこれから何が起こるかということは、日本民族の命をかけて本気で考えるべきことです。

世界を見ますと、アフガニスタン、アルバニア、アルジェリアなどあらゆる国で、ワク

チンを打った直後に感染爆発が起っています。全部ブースターショットの直後に例外なく感染が広がっている。これが今世界で去年の暮れまでに起っていることです。

そういう状況の中で、オミクロン株でPCR検査の陽性者があおられている。なぜなのかということですが、実はSARS、CoV2というのは、ADEが起こるから非常に危ないということがわかっています。それを安倍さんも知っているから、ワクチン争奪戦に勝つためには、何か起こったら政府が補償しますという、カモがネギを背負ってやっとな買ったのがアストラゼネカ製だったのです。そして、その当時は誰もこんなものを打つかというふうに厚生労働省の大臣もおっしゃっていたのです。これは正解ですが、その正解を無視してDNAワクチンを打った途端に、EUで高齢者が死に出して、そしてそれが日本へ回ってきた。台湾にお裾分けしたということをお知らせしましたが、今度はメッセンジャーRNA、これを安全だということで打ちまくっていますが、ブレークスルー感染が起こってブースターショット、要するに今回のワクチンは効きません。そして、そういう状況の中で、今オミクロン株が始まっているのです。

皆さん方、オミクロン株で非常に心配なさっておられますが、実はオミクロン株はスパイクに32カ所変異があって、もう従来型のデルタ株までの新型コロナウイルスとは全く違った、もうぼこぼこに殴られたようなお岩さんみたいな顔をしたのがオミクロン株です。そして、その32カ所もの変異の中の大部分が、実はこの受容体と結合する場所なので、結合できなくなっているのです。そのために、ACE2受容体から喉の粘膜に感染する昔型の風邪ウイルスに格下げしてしまった。しかしながら、このスパイクの根っこのところがちょきんと非常に切れやすくなるので、物すごい感染力を持ったのです。これが、一気に爆発的に感染して世界中に広がっている理由であります。しかし、結果としては喉風邪にすぎないと。だから、今回こそ喉あめが最高によく効く風邪になったというのが、分子レベルから見たオミクロン株の実態です。

そういう意味では、10代は誰も死んでいない。二十歳を過ぎると活動がふえるから感染しますが、圧倒的に無症状です。そして、80歳を超えたじいさん、ばあさんは、昔からお迎えは風邪で来ていたのです。風邪は万病の源という名言があるように、これは武漢でもEUでも日本でも同じです。

そして、一番重要なものは、人から人ではなくて、人、物、人という、物を介して、しかも時差を持って感染する。だから、人流抑制は全く無意味なのです。そして、皆さん方のマスクも。そういうものを必死でやっている。

そういう意味では、今世界中がヒステリー状態に陥っております。ここからいい年の大人がどうやって正気に返ってくるか。これこそが、県議会議員の皆さん方が、岩手県民を守るために本気で知恵を絞ってメッセージを出すべきことです。

そのためのテークホームメッセージとして、五つ持って帰ってください。やはり風邪は万病の源なので、手洗い、うがい、鼻洗浄、そして口腔ケアとトイレの清掃、この五つをやる。それ以上はもう無駄です。それで、鼻洗浄というのは、これは普通の水道水でやる

と痛いのですけれども、塩水、1リットルのペットボトルにスプーン1杯半を入れてしゃかしゃかとやると生理食塩水になりますから、これですと非常に楽です。そうしますと、インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス、全部一気に通貫で排除できます。これが最高の予防法なのです。

そして、症状のない人たちは、もう一生懸命勉強しましょう。オミクロン株がただの風邪になってくれた。100年前と130年前、1年から2年でワクチンもないのに自然消滅した。オミクロン株で今3年目なのです。その3年目のオミクロン株は、130年間生き延びてきた喉型の風邪ウイルスに格下げしてしまった。これがきょう皆さん方にお伝えしたい最も重要なメッセージです。

そういうことで、元気な方はしっかり働いてしっかり勉強する。もうオミクロン株は恐れるに足らずというのは、世界の化学が教えてくれるところです。正気に返るのに唯一の障壁が指定感染症2類。いまだにペストやコレラみたいにやっている。これをインフルエンザ以下の5類相当に引き下げる。今では新型インフルエンザ等対策特別措置法で2月の半ばにこれが1年を迎えます。これを去年の暮れに安倍さんが、もう5類相当にしましょうと言ったら、いろんな人からかなりバッシングを受けていましたが、この正気を皆さんが応援してあげることが日本を救う最も重要なミッションです。

そういう意味で、ことしの2月が日本にとっての関ヶ原です。こういう声を国会に届けると。私は3年前に本当はこわくない新型コロナウイルスという幼稚園向けのタイトルの本を書きましたが、それでも怖がるから、新型コロナが本当にこわくなくなる本という、ちょっと年長組の本。そして、3日寝たら治るのにコロナワクチン幻想を切るという本を書きましたが、まだワクチン接種がとまらないということで、小林よしのりさんと一緒にコロナとワクチンの全貌という本で、なぜワクチンを打っても感染拡大がとまらないのかについて書きました。そして、最後のとどめとして新型コロナ騒動の正しい終わらせ方という本です。この中に皆さん方が知りたいことが、ネイチャー、サイエンスが素人の方でも分かるようにQ&Aで書いてあります。それが今のオミクロン株の安心情報につながれば、皆さん方、きょうからマスクの要らない岩手県議会をやっていただけると、私の研究者生命をかけてお伝えします。

私もこの2年間、マスクはよほどのことがない限りはしません。飛行機とかで他人が不安になるようなときだけするので、ポケットの中には一応入れてはいますが、それで一度も発症したことはございません。しかし、しょっちゅう私は自分の血液を調べて見ております。そして、波ごとに抗体が上がっては落ちているのです。そういう意味では、私も皆さん方も6回目のワクチンを今打ちつつある。そういうことをぜひしっかりと意識して、岩手県民を守ってあげていただきたいと思います。以上でございます。

○高橋はじめ委員長 長時間にわたり御講演いただきました。井上様、大変ありがとうございました。

例年2時間ぐらいの委員会でございます、そういう面からしますと10分ぐらいしか時

間がないのですが、先生の御講演に対します質問を受けたいと思います。発言のある方は挙手をお願いいたします。どなたかございませんか。

○齊藤信委員 先生のお話を聞いて、大変驚きました。マスクも必要ない。ワクチンも無意味だと。

○井上正康参考人 どなたがしゃべっておられるのですか。

○齊藤信委員 私です。

○井上正康参考人 ああ、マスクを外していただけるとね。表情筋というように、顔は言葉なのです。

○齊藤信委員 PCR検査も問題だということで、今世界と日本で取り組んでいる方向とは全く違った話を聞いたという印象です。

それで、先生の最後のところで、うがい、手洗い、鼻洗淨、あとトイレでしたか。示されたのは、それだけの対策なのかなど。デルタ株でも国内であそこまで感染が拡大し、今はオミクロン株で第6波の入り口にもう入ったというふうに言われるような感染の状況の中で、うがい、手洗い、鼻洗淨、ここら辺りはみんなやられていることですよね。それだけで対策になるのか。

そういう点では、いろいろたくさんのお話を聞きましたが、本当に今この新型コロナウイルス感染症の感染を抑止するといえますか、そこから国民の命を守るという点で、実際にデルタ株のときには大量に国内でも自宅で亡くなる、治療も受けられなかったということがありました。昨日だと、全国で重症者が約100人になりました。治療法もいろいろ改善されてきていると思うのですけれども、恐らく重傷者がどんどんふえていけば、死者の数もふえると思いますが無策でいいのでしょうか。もっと積極的な、例えばワクチンについても、これはイギリスの大学の報告で、6カ月たてば感染予防効果というのは7.9%に低下すると。重症化は35.2%、死亡は50.4%に低下するということです。3回目のワクチンを打てば、感染予防効果では48.4%、重症化が85.5%、死亡が91.7%防止できるということがニュースでも紹介されました。

私は、やっぱりそれなりの効果があって、今3回目のワクチンを前倒しでやるというのは必要だと思っているのですけれども、そうした点について、最後にお話しされた程度の対策でいいのでしょうか。

○井上正康参考人 少なくともこのデータをごらんになれば、ウイルスの感染を人間の猿知恵でとめることはできません。もう何をやっても、自動的に世界中で同じリズムを刻んで波がどんどん、どんどん高くなっている。これが事実です。

そして、恐らく皆さん方が入手されるような情報というのは、ほとんどがマスコミュニケーションからデリバリーされている情報なのですが、私が紹介したのは、これは全部論文になっている一次情報が基本です。そういう意味では、全く違った次元、レベルの情報を大半の方が入手されているということです。

そして、今現実に起こっているのは、例えば韓国などでも、ブースターショットでワク

チン接種の回数が多いところが重症化しています。御存じのように、今韓国では結構重症者が出ていますよね。韓国は、実は千数百万回分のDNAワクチンを打っているのです。ここが日本と決定的に違います。日本人と韓国人は、HLAという広い意味での免疫のバックグラウンドは近いのですけれども、決定的な違いは、韓国ではDNAワクチンがかなり使われているということです。

そして、恐らく近い将来、今韓国で亡くなったり重症化したりした人が、DNAワクチンとメッセンジャー型のどちらのタイプかというのがやがて出てくると、国民が知ることになると思います。

それから、もう一つは、ブースターショットをしたほうがいいというふうに勉強されて認識されていると思いますが、ほとんどの医者も同じように考えています。しかし、ファイザー自身が、今のワクチンはスパイクが全く違うオミクロン株には効かない。効果がもう10%以下になっているということを正式に認めております。そして、去年の暮れに3カ月以内にオミクロン株専用のワクチンをつくるということで、旧型のワクチン製造は今世界的にほとんどとまっていて、オミクロン株用にシフトしているのです。それができるのが、早くて3月の半ば以降です。しかし、恐らくオミクロン株は、もう2月までに終わってしまいます。ですから、ファイザーが新たに提供してくるオミクロン株のワクチンは、既にもう使い物にならない、賞味期限切れのものがやがて世界中に回ってくるようになると思います。これが現実なのです。

そして、ワクチンというのは、常に現在と過去のウイルスに対する迎撃ミサイルなのです。そして、2週間に1回変異している。新株にはワクチンは追いつけない。だから、新株に感染すると、いろんな場所、もう何百カ所もの認識部位ができる。そういうマルチプルな迎撃ミサイルを準備することによって、どれかが当たってくれる。これが、ワクチンよりも自然感染が最も有効な免疫の強化訓練であるということです。

そういう意味では、風邪は万病の源なので、かからないにこしたことはない。それが私の提唱している五つの予防法です。それ以外に、今回これをやることによって、緩やかな感染になる可能性があります。これが現状で、日本では医療逼迫と言われている人災をこれ以上悪くしないためには、一気にみんなで赤信号を渡る必要はない。しかしながら、オミクロン株に関しては、もうほとんど8割以上の日本人が既に無症候感染しています。大体10日で倍になるのですね。そういう状況を見ますと、新しい無症候性パンデミックが今のオミクロン株の実態です。

そういう意味では、今回PCR検査で大騒動しましたが、そのおかげで感染がどのように広がっているのかということについて、世界中のデータを見ることができて、この2年間で多分100年分の感染症研究が一気に進みました。そういう視点から俯瞰的に見ると、今回のオミクロン株は、100年前のインフルエンザや130年前のロシア風邪と同じように、自然終息する時期が今来ていると思います。

しかしながら、10年ごとにSARSとか、MERSとか、強毒なウイルスが時々出てき

ます。しかし、こういう強毒なものが出てきたら、そのときはクラスター解析で、強毒であるがゆえにいと簡単に封じ込めて、のこのお隣へうつしに行く暇がないのが強毒株なのです。それと対局にあるのが弱毒のオミクロン株です。だから、オミクロン株は、世界中でもう既にパンデミックになっております。何をやってもこれは予防できません。これが今の現実です。

○千葉伝委員 先生のお話を聞いて、今までの考え方が逆転するような中身というふうに私は感じました。

ウイルスは、もちろん自分が生き延びるために、どんどん、どんどん変異を繰り返していく。その間に、宿主としての動物なり人なりに感染して生き延びているということで、宿主の人間なり動物がいなくなればウイルスはなくなるということが究極の話なのですが、お聞きしたいのは、先生がおっしゃるように、本当に日本人のほぼ8割、9割が自然免疫を獲得しているのであれば、新たにワクチンを打たなくても十分だという理屈になるのだと思いますが、日本人が本当にそういう自然免疫を獲得した状態にあるのかどうかという証明がちょっとはっきりしないのですが、いかがでしょうか。

○井上正康参考人 今の御質問、非常に大事なポイントですが、誤りが一つございます。免疫には、自然免疫と獲得免疫の2種類があります。

自然免疫というのは、口の粘膜とか皮膚の皮下のところに、最も重要な、将棋でいうと歩のような免疫がございます。これはもう赤ちゃんのときからあるのです。そして、変なものが入ったら、活性酸素やインターフェロンを出して戦ってくれる。これは、わざわざウイルスにかからなくても皆さん持っております。

そして、新たにウイルスに感染したり、ワクチンを打ったりしてできるのが獲得免疫なのです。自然免疫は、獲得をする以前からある。そして、獲得免疫には、抗体をつくる液性免疫と、感染した細胞を戦車で踏み潰すような細胞性免疫の2種類ございます。

ワクチンを打った場合に行けるのは、ミサイルと細胞性免疫の2種類なのです。そして、ウイルス感染で一番大事なのは、最後の細胞性免疫です。だから、将棋でいうと飛車、角、桂馬がミサイルなのです。そして、金、銀が細胞性免疫です。そして、この細胞性免疫ができていくかどうかという、その記憶があるかどうかウイルス感染では最も重要です。

そして、去年理化学研究所が、日本人で感染した記憶がないのに大半の人がキラーTセルという新型コロナウイルスを迎撃できるような交差免疫を持ったリンパ球があるということを実証しております。これが3年前に山中君が言っていたファクターXの一つの実態なのです。この理化学研究所が証明したのは、もう5回も無症候性感染したことによって、どんどん細胞性免疫力が強化されてきた。そういう意味で、今我々は最強の免疫軍事訓練をやった直後であるというふうに考えられます。

そういう意味では、日本のオフィシャルな国立研究組織で、もう集団免疫が出来上がっているという論文が去年の夏以降に報告されています。だけれども、これは決してメディアは報道していないのです。恐らくこれが出ると、もうワクチンを誰も打たなくなるから、

そういう報道規制が背景にあるように思われます。よろしいでしょうか。

○千葉伝委員 液性等々のお話は、そのとおりだというふうに私も思います。

それで、新型コロナウイルス感染症という名前になっていますよね。いわゆるウイルス感染症だということになれば、ほかのウイルス感染症にも同じようなことが言えるのでしょうか。

○井上正康参考人 基本的には、ウイルスに対しては同じような対応をしております。

○千葉伝委員 そうすると、ワクチンというものが何で必要かというところにまた戻るのですけれども、人間も動物もそういったウイルス感染症のいろいろな病名があるわけですが、その都度、製薬会社がそれに対抗するために、免疫を持たせるためにワクチンをつくっております。これまでずっと私はそういう頭で考えてきているのですけれども、そのウイルス感染症に対するワクチン、いわゆる免疫を獲得させた上で、予防というか防御をします。私は人の医者ではなくて動物の医者なのですけれども、いろいろな病気に対して今もワクチンをどんどん使っているわけで、そうすると今まで何のためにやってきたのかなというふうな気持ちになるのですが、その辺りについてはどうでしょうか。

○井上正康参考人 獣医の非常に大事なポイント、ありがとうございます。

実は今回の新型コロナウイルスワクチンに関しては、獣医学の先生方は、新型コロナウイルスに対してワクチンは無駄だと、無理なのだということを常識的にもう皆さん御存じです。私もそういう学会によく呼ばれていて、猫コロナウイルスとか、フェレットコロナウイルスとか、それぞれに特有のコロナウイルスがございしますが、獣医さんたちが相当詳しく研究なさっておられます。そういう意味から、実は3年前、私が獣医学会の先生方に呼ばれて講演したときに、今回医者は何でこんなばかなことをやるのかというホットディスカッションをやったことがございます。

それ以外に、やはり強毒性の例えば狂犬病ワクチンや天然痘などの非常に致死率の高いようなウイルス感染症に関しては、やはり今でもワクチンは非常に有効だろうというふうに考えております。

それが、今回のような遺伝子ワクチンでいけるかどうかというのは、全く別なのです。従来型の皮下で自然免疫からだんだんに軍事訓練していくような形の、すなわち自然な感染をシミュレートするような免疫の軍事訓練は、制御システムとして結構優れているというふうに考えられます。

しかし、今回はいきなり歩がなく、飛車、角と金、銀だけで戦うような遺伝子ワクチンで、これが人類初のものなのです。実はつい最近出た国際ジャーナルでは、遺伝子ワクチンを打つことによって、自然免疫力が破綻していつているのだという状況がわかりつつあります。その結果として、実はブースターショットまで行かずに、2回目を打っただけでヘルペスブースターという、ヘルペスが出る人が物すごくふえてきております。ヘルペスウイルスというのは、神経細胞に常在感染しているのですが、免疫力が落ちたり、疲れたりしたときに出てきたりするように、動的平衡でバランスが決まっていま

す。そういう意味では、今回の遺伝子ワクチンは、自然免疫を脆弱化するような、未知の機能があるということが初めてわかりつつあります。

それから、前橋レポートというのがあって、群馬県前橋市の小児科の医師が、インフルエンザワクチンを打った群と打たない群で比較したら、効いていないということで、厚生労働省にクレームをしたところ、厚生労働省が5年間をかけて再調査した結果、やっぱり効いていなかったということがわかったので、それ以降任意接種になったのです。それまでは学校でやるから、子供にとっては強制接種だったのです。そういう意味では、効くはずだと思っていたインフルエンザのワクチンが本当に効いているのかどうか。これを今回の新型コロナウイルスワクチンの経験と同時に、もう一回検証し直してみる時代が始まっています。そういう意味では、ワクチン学がもう一回原点に戻って研究し直す。今の最先端の技術でやったら、全く違った答えが出てくる可能性があります。

しかしながら、SARSやMERSや天然痘のような強烈なものに対しては、やはりワクチンというのは、いまだに非常に重要な戦略物質になり得るとというのが大体コンセンサスを得られる医者としての見解だと思います。

○千葉伝委員 いろいろと詳しい御説明ありがとうございます。いずれ今の状況は検証途中という理解をしていいかどうかというところで、そうしますと、先生のおっしゃるように検証途中なものに対して、もうワクチンを打つ必要がないという結論というか、判断ができるのでしょうか。

○井上正康参考人 特に海外では、今回の新型コロナウイルス感染症で日本の100倍近く亡くなっておられますので、日本と比べて、海外での恐怖感というのは桁違いに強いと思います。それが、ドイツとかオーストラリアのような非常に厳しい政策、ワクチン政策を強制的に軍隊レベルで、もう軍事行動としてやるような状況が出てきつつあります。

しかし、日本の国会で高橋さんがさざ波と言って首になりましたけれども、本当にラッキーなことに日本はさざ波以下で、私が見るとリスクとしてはなぎに近いような状況で、非常にラッキーだったと思います。

そういう状況の中で、特にオミクロン株は、まだあつものに懲りてなますを吹くように、日本の感染症のプロと言われている人たちが、いや、ただの風邪ではないのだということで、まだまだ注意深く見守るべきだというように、非常に警鐘を鳴らしておられますが、もう世界中のどの国でも決して強毒化していません。50人死んだ。日本ではおととしまで毎年、風邪でもっとももっとたくさん死んでいたのです。がんでも心筋梗塞でも脳卒中でも、死ぬときは圧倒的に風邪で死んでいたわけです。

そういう状況を考えて俯瞰的に見ると、今回のオミクロン株が、我々にとってはお年玉であるというのは、データを見る限り間違いございません。これを集計してネイチャーやランセットに出るころには、もうオミクロン株も終わっています。

○高橋はじめ委員長 まだまだ質問したい方いらっしゃるかと思いますが、以上で質問は打ち切りをさせていただきます。

井上様におかれましては、本日は貴重なお話をいただきまして、大変ありがとうございます。ウィズコロナ、ポストコロナの時代に、私たちはどのように感染症に対応していったらよいか、今後も御示唆をいただきますようによろしくお願ひしたいと思います。

大阪府から悪天候の中お越しいただきまして、本当にありがとうございました。

それから、議会図書室には、この本を1冊購入させていただいておりました。私の手元には別な本が2冊ありますので、御興味ある方はお貸しをします。

○井上正康参考人 この新型コロナ騒動の正しい終わらせ方という本も置いていきます。私の50年間の研究人生をもう思い切りこの本に書いて、テレビしか見ていないおじいちゃん、おばあちゃんがわかるような易しい文章にしております。私はこれを日本に100万部配ろうと思います。それで、10冊以上の場合、原価でお出しするようにしていますので、ぜひ皆さん方御自分でこれ読まれて、納得されたらまとめ買いして、ぜひ県民の方たちに県の予算で贈ってあげられると、多分県議会議員の皆様方がちゃんと仕事をしてくれたという1年になると思います。ぜひ正しい知識で守ってあげてください。

○高橋はじめ委員長 どうもありがとうございました。

それでは最後に、感謝の意を込めまして拍手でお願いしたいと思います。(拍手)

○高橋はじめ委員長 次に、その他であります、何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋はじめ委員長 なければ、以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。御苦労さまでした。